



生徒のみなさんへ 湯梨浜中学校のあたり前「あいさつ・じかん・そうじ」に全力を③

<「そうじ=あなたの心=日本人の誇り」の巻>

サッカーワールドカップで有名になった日本人サポーターのゴミ拾い。世界的にも注目を集め、他国のサポーターの中にもその行為をまねする人が現れ始めたそうです。この日本人サポーターのゴミ拾いがマスコミで大きく取りあげられる前、ある国の記者がゴミ拾いをしている日本人に「どうしてゴミ拾いをするのか」と尋ねたそうです。その時の日本人サポーターの答えは、「自分たちが使った試合会場のゴミを拾うのは『あたり前 (ATARIMAE)』です」と答えたそうです。私はこのニュースとその後のサポーターたちの行動を本当に誇らしく思いました。日本では家庭や学校において、自分たちが使用した場所は自分たちできれいにするという教育がなされ、観光地等でもそれが徹底されています。日本に訪れた外国人の方が日本のゴミの少なさに驚き、それを日本にまた来たいと思う理由のひとつにあげています。今後も、国の清潔さは日本にとって大きな財産のひとつになっていくのではないかと思います。



さて、校長室には日々たくさんのお客さんが来られます。そのお客さんたちが口をそろえて、「いつもきれいですね」と褒めてくださいます。この校長室には3年4組の生徒たちが（自分たちが使った場所でもないのに）毎日そうじをしに来てくれています。本当に一生懸命にそうじをしてくれて心から感謝しています。しかし、先生方からは学校全体ではそうじがきちんとできている人とそうでない人との差がとても大きいという話を聞いています。始業式、入学式でも話をしましたが、学校におけるそうじは君たちの勤労・奉仕の心、将来の仕事に対する姿勢にもつながっていくのです。そこで、以前私が担当する学年の生徒たちのためにつくった「そうじと心」というメッセージを紹介したいと思います。

「そうじと心」

「そうじ」は、その場所を単にきれいにするだけでなく、

自分自身の心もきれいにしてくれる。

あるお坊さんが言っていた言葉である。改めて考えてみると、確かに「そうじ」に頑張っている人は心が安定している。心が安定している人は「そうじ」に頑張っている。そう感じる。

以前、ある中学2年の女子生徒が言っていたことがあった。

「先生、最近そうじが楽しいです。」

彼女は2年になってから本当に「そうじ」に頑張るようになった。彼女（裏面に続く）

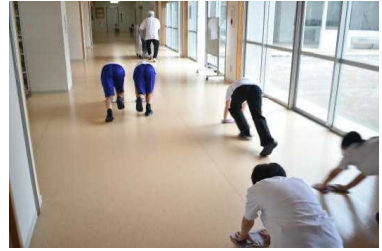
ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



は2年から少しずつなかまに優しくなった。人権学習にも一生懸命に頑張るようになった。1年の時には予想もしなかった生徒会執行部の一員にもなった。

心の成長でそうじを頑張るようになったのか？ そうじを頑張るようになって心が成長したのか？ それは、わからない。でも、そうじの様子にはその人の心が現れるようだ。来週からのみんなのそうじの様子が楽しみである。



校長室のそうじ当番をはじめ、一生懸命そうじに取り組んでいる人は、今後もどんどん心が成長していくと思います。そんな仲間が湯梨浜中学校に、もっともっと増えることを期待しています。

学校経営方針について③

本年度の重点目標

(1) 自ら主体的に学習に取り組む力を高める

- ① 主体的な学習活動を促進し、協同学習の理念を活かしてともに学ぶ態度を育む。
- ② 学習規律を徹底し、自ら授業を改善する学習集団を育てる。
- ③ 目標の自覚と客観的な自己認識を深め、他の生徒や教職員、種々のメディアを活用させながら自己の学びを調整する力を育む。

「協同学習というのは、『クラス全員がわかるようになることを目標として取り組む学習』『自分の頑張りが仲間の力になり、仲間の頑張りが自分の力になる学習』です。決してただの教え合い学習やグループ学習ではありません。我々職員は、生徒が、気づいてみたら『仲間のために頑張っていた』『仲間の頑張りで助かった』と感じる授業を目標に研究・研修を続けていきます。」

(2) 日々の体験をととして温かな人間関係を築き、自己有用感と自治的能力を高める。

- ① 学校教育全体を通じた人権教育を実践し、想像力と共感性を伸ばし、個の特性を認め、多くの人の立場で考え、自他共に大切にしようとする態度を養う。
- ② 生徒会活動や短学活を活かし、自己や集団を振り返り、改善しようとする態度を養う。
- ③ 集団や地域に貢献できる活動に取り組ませ、自己有用感を高める。

「道徳・人権学習は学年全体で授業づくりを進めるとともに、担任以外の教員もローテーションを組んで授業をするなど、組織的に授業実践を行っていきます。また、行事等の様々な取組を今まで以上に生徒主体のものにしていきたいと考えています。」

(3) 教育上の諸課題について、保護者や専門機関、地域との連携を深め、解決を図る。

- ① 長期欠席防止や特別支援教育推進において、保護者や小学校、地域との連携や、教育相談員・SC・専門機関等との連携を充実させ、推進者を中心に組織的で機敏な対応をする。
- ② 郷土芸能など地域の教育的資源を生かし、誇りと自信につなげる。

「長期欠席、特別支援、生徒指導に関して、生徒1人1人にどのように対応していくのかを話し合う会を増やし、今まで以上に組織的な対応を目指していきます。昨年は3学期に実施していた1年生の郷土芸能の授業を1学期に変更し、地域の様々な事業において生徒たちが郷土芸能に参加しやすい環境を整えました。」